

城下町・金沢の雅を、暮らしに取り入れる。

Make the elegance of the castle town of Kanazawa part of your life.

Kanazawa
Traditional
Arts & Crafts

Vol.11
2011 Autumn



SUTEKI

金沢漆器
Kanazawa lacquerware
金沢九谷
Kanazawa Kutani ceramic ware
金沢箔
Kanazawa leaf
加賀友禅
Kaga Yuzen dyeing
加賀繻
Kaga embroidery
金沢仏壇
Kanazawa Buddhist altars
希少伝統工芸
Rare traditional crafts

The Power of the
Kanazawa City
of Crafts

金

工芸王国



特集1

豊潤な文化に
育くまれた器の美

Feature 1 : The Beauty of Tableware Produced by a Rich Culture

祝平成23年度文化勲章受章 大樋長左衛門先生
Congratulations 2011 Order of Culture Master Potter Chozaemon Ohii

対談……………十代 大樋長左衛門 × 奈良宗久
Conversation Chozaemon Ohii the 10th Sokyu Nara

特集2

陰翳礼讃

心奪われる艶やかな光を求めて

Feature 2 : In Praise of Shadows

In search of enchanting splendor

の底力

沢

伊勢海老真蒸のお吸物 千口子、柚子、金時草

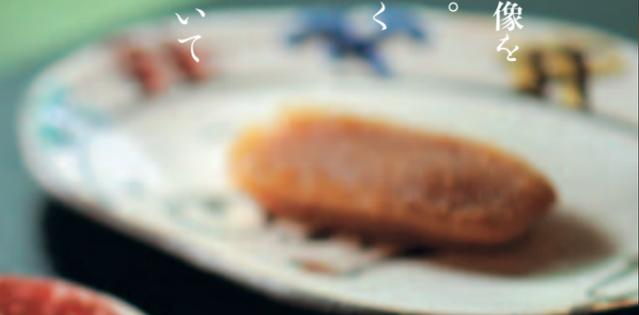
Clear soup with lobster paste Sea cucumber ovary, citron, kinjiso leaves

撮影協力：懐石つる幸 Photo taken at Tsuruko

器の美



藩政期の金沢は、現代の私たちの想像を
はるかに超えた文化工芸都市でした。
金沢の地に三百五十年にわたって続く
大樋焼の十代大樋長左衛門氏と、
ご子息で茶道家の奈良宗久氏に、
金沢の器の背景にある茶道文化について
語っていただきました。



手前 寒鯛のレイベ / せん菜の酢漬け
front Frozen adult yellowtail, pickled horseradish leaves (sen-na)
奥 身巻き唐墨
back Botargo roll

Feature 1
The Beauty of
Tableware Produced
by a Rich Culture

豊潤な文化に

特集1 工芸王国・金沢の底力

育くまわれた、

対談
Conversation

奈良宗久
な げ り 宗 久
な げ り 宗 久

茶道裏千家
さとうらせんけ
財今日庵業 躰部講師
（財）今日庵業 躰部講師
（社）日本現代工芸美術家協会会員
Sakyu Nara,
authorized instructor of the Urasenke Tradition of Tea
Member of the Japan Contemporary Crafts and Artists Association

十代 大樋長左衛門
とおひひさむね
とおひひさむね
陶芸家／文化勲章受章者／日本芸術院会員
Chozemon Ohi the 10th
Potter, Recipient of the 2011 Order of Culture
Member of the Japan Art Academy

平成23年11月3日に、
大樋長左衛門先生が
平成23年度文化勲章を
受章されました。
おめでとうございます。
Chozemon Ohi was awarded the 2011
Order of Culture on November 3, 2011.
Congratulations to Mr. Ohi on his
decoration.

—— 金沢は古くから茶の湯が盛んな土地柄です。

大樋 —— 江戸時代から明治にかけて「五都」と呼ばれた都市があります。東京、大阪、京都、名古屋、金沢のことなのですが、これは茶の湯文化があるまちを指しています。

奈良 —— 金沢の茶道は、初代加賀藩主前田利家公が千利休に学んだことに始まりました。三代利常公は裏千家の祖、千仙叟室を京都から招いています。仙叟室はその後、五代綱紀公にも任せ、茶道奉行を務めました。仙叟室が藩の重臣をはじめ、商人、町人を招いて交流の茶会を繰り返し開いていたのがこの場所です。茶の湯は武士だけでなく町衆にも浸透していったのです。

大樋 —— 藩主は正月などには有力な町民を呼んで能とお茶でも

てなしていたんですよ。かなりの数の点て出しの茶碗を町衆に配っています。

奈良 —— 茶会にはさまざまな道具が用いられますから、工芸品の製作も必然的に盛んになっています。

大樋 —— 茶陶家として仙叟室とともにこの地に來たのが楽焼の陶工だった土師長左衛門、後の初代大樋長左衛門です。仙叟室の指導のもとで茶器を製作したのが大樋焼の始まりです。

—— 利常公以降、前田家は文化振興策を押し進めています。

大樋 —— 仙叟室もそうですが、刀剣では本阿弥光悦、絵画では俵屋宗達、狩野探幽といった当時の一流の文化人や工芸家を江戸や京都から呼び寄せています。

奈良 —— 利常公の妻珠姫は徳川幕府二代将軍秀忠公の娘ですが、珠姫の妹が天皇に嫁いだのがきつ

特集1
豊潤な文化に育くまれた、器の美

工芸は平和な時代の象徴でもあるのです。

大樋

Crafts represent a peaceful period in human history. (Mr. Oh)

陶芸家／文化勲章受章者／日本芸術院会員

十代 大樋長左衛門

おおひ・ちようざえもん

1927年大樋窯九代長左衛門の長男として生まれる。1987年十代襲名。加賀藩前田家のお庭焼として独自の作風を展開してきた大樋焼の伝統を守りつつ、日本の陶芸界を代表する芸術家として活躍する。文化勲章受章者、日本芸術院会員、日展常務理事。

きどううらせん けい こんにちあんざいとうてい ぶ ころし
茶道裏千家 (財)今日庵 業 躰部講師
㈱日本現代工芸美術家協会会員

奈良宗久

なら・そうきゅう

1969年十代大樋長左衛門の次男として生まれる。1990年日展及び現代工芸美術展初入選。工芸活動を続けながら茶道の道へ。1995年茶道裏千家今日庵に入庵。宗家直下の指導者として認められ、業躰部講師として茶道の普及に金沢を拠点とし、全国及び海外を飛び回る。



茶杓：坐忘齋家元作 銘大樋
Tea spoon: Made by the Grand Tea Master Sabosai, named Ohi

茶箱：時代加賀蒔絵 須磨絵図
Tea case: Decorated with Kaga gold lacquer, and a design of a scene in Suma

茶器：初代大樋鮎袖茶盃 銘澁柿
Tea cup: Cup with brown glaze made by Ohi Chozaemon the 1st, named Shibugaki (Persimmon Tannin)



Places such as this, with such rich cultural circumstances, are rare in Japan. (Mr. Nara)

これほど豊かな文化の土壌があるところはない。全国でもまれでしょう。奈良



の土壌があるところは全国でもまれでしょう。

大樋先生は茶陶家として、奈良先生は茶道家として、日本の文化を牽引されています。

大樋—— 錠はもともと武具ですが、天下泰平の江戸時代にあつては戦に用いるわけではなく、飾つて愛でるものでした。工芸は平和な時代の象徴でもあるんですね。

奈良—— 利常公は海外にも目を向け、東インド会社を通じてオランダのデルフト陶を大量に買い付けましたし、長崎に舶載された名物裂も購入していた。京都の桂離宮も利常公が造営のスポンサーになっているんですよ。美の追求に関しては、他の大名の追随を許さないスケールの大きさです。

大樋—— こうした文化振興策には経済の下支えが欠かせません。当時の加賀藩は日本屈指の豊かな藩だったので。利常公は数寄者であるとともに優れた行政家でもあったわけです。前田家が育んだ文化の土壌は明治、大正、昭和、平成と受け継がれていきました。奈良—— 現在、金沢のような規模の都市でこれほど豊かな文化

大樋—— 私は「創意創作」ということを重んじています。創意とは伝統と革新、いずれの要素も含まないもの。創意なくしてもものをつくる意味はありません。創意を持つて今の時代を見据え、他にないものを創作する。そういう気概でいます。

奈良—— その意識はお茶の世界にも相通じるものがあります。お茶というものは稽古をするものですが、稽古とは本来、古事記に「稽古照今」古を稽え今を照らす」とあるように、古くから続いてきたさまざまな事柄を学ぶことで、今が見えてくるという教えなのです。

大樋—— 茶道具の始まりにしても、最初は中国から輸入された唐物を使っていましたが、これに対して利休が楽茶碗という、自分好みの新しい道具をプロデュースしました。

奈良—— 座り方も江戸以前は片膝を立てて座るのが普通で、正座が広まったのは近代に入ってからなんです。明治五年の京都万国博

「文化」という前田家の大いなる遺産

Culture is the great inheritance of the Maeda family.



大樋鮎袖茶盃

大樋鮎袖茶盃
大樋鮎袖茶盃
大樋鮎袖茶盃

Ohi cup with brown glaze
Grand Tea Master Hounsai's whirlpool design and the Maedas' plum-patterned family crest design
Collaborative work of Maeda Toshiyasu (the 18th generation of the Maeda family) and Ohi Chozaemon the 10th

特集1
豊潤な文化に育まれた、器の美



加能蟹利休焼き
Crab grilled in the Rikyu-style
能登牛のローストビーフ
Roasted Noto beef

父と子が語る
もてなしの極み
Father and son talking about
the ultimate in hospitality.

「加賀太胡瓜釜」鮑の治部煮
Jibuni abalone stew in a Kaga thick
cucumber pot
刺身盛り合わせ
Gasu ebi, tuna marinated in soy sauce,
baigai shellfish, akanishi shellfish,
sweet shrimp dipped in chili oil,
namera white-fleshed fish wrapped
in kombu seaweed, blowfish, toro
(fatty tuna), octopus



撮影協力：懐石 つる幸
Photo taken at Tsuruko

覧会では、外国人客のために椅子に座って行う立礼が考案されました。今の千宗室家元もより多くの人に茶の湯に親しんでほしいとあぐらなどでの座礼棚を提案されています。

大樋——立礼が考案された当時は、椅子に腰掛けてお茶を飲むとは何事だと批判もありました。しかし、時代がそれを受け入れた。時代が進んでいくことは間違いないことです。そこに無理に抗うのではなく、その時代で精一杯のことをしていかなければ、歴史に残るものは生み出せません。

奈良——金沢21世紀美術館も当初は古都として少しの批判もあったというのですが、今や全国区で注目を集めています。金沢の人は今の時代を見て常に変化していますね。

大樋——変化し続けるまちは生き生きしているものです。

奈良——藩政期から今に受け継がれている加賀気質でしょうね。

いい加減な気持ちで
作ったものはすぐ分かる。
作陶はそれほど怖いもの。

奈良
One can easily identify a piece of pottery made half-heartedly.
Pottery reveals the potters mind.
(Mr. Nara)

大樋——親子ですからね、趣味も似てくるんですよ。どうしても(笑)。

奈良——道は違っても親子でこうした話ができるのというのはありがたいですね。

大樋——茶室は凝縮された遊びとコミュニケーションの空間です。文化を伝える場であり、ときには政治や経済を語る場にもなるのです。

奈良——茶席に用いるお道具も、季節やお招きする方の好みに配慮して、会話が弾むようなものを選びます。私自身、父の薫陶を受けて作陶もするのですが、ろくろを使わない大樋焼には作り手の心が表れます。いい加減な気持ちで作ったもの

はすぐに分かる。作陶とはそれほど怖いものなんです。

大樋——お道具は焼き物に限られない。棗や干菓子盆には漆器が使われますし、加賀象嵌の建水や蓋置もある。カラフルな色絵が特徴の九谷焼も、気軽な薄茶席には面白いものです。

清水 翠東 作
By Suito Simizu
金唐草 玉露揃え
Gyokuro (highest-quality) tea set
decorated with golden arabesque pattern

金沢九谷の名工 故清水翠東氏の作品。絵付け一筋で豪華、繊細かつ精緻な金沢九谷の伝統技術を持ち、優れた写生力で花鳥風月、山水、人物画等の作品を多く残している。この茶器揃は大変高価な金をふんだんに使い柔らかで精緻な唐草紋様を施しており、静かな臨場感と緊張感を醸し出している逸品である。

■ ¥300,000/急須・φ100×H60mm、湯冷まし・φ65×H40mm、碗・φ45×H40mm
金沢九谷振興協同組合 ショップ
No.8 → P24
Kanazawa Kutani Ceramics Promotion Association





長谷川 健一 作
By Kenichi Hasegawa

抹茶盃金彩桜

Tea cup with golden cherry blossom

霜かかったような渋い金を背景に、金盛の桜が咲く抹茶盃。盛絵具と呼ばれる粘度の高い絵具を用いて紋様を描き、立体感と陰影をつけている。

■参考商品 / φ105×H80mm

金沢九谷振興協同組合

ショップ No 9 → P 24

Kanazawa Kutani Ceramics Promotion Association

江戸の美と 京都の美が ここに集まり、 加賀の美が始まった。

The beauty of Edo
and the beauty of Kyoto
came together here
to create the beauty of Kaga.

—— お茶を通して見えてくることはたくさんあります。

大樋 —— 私はね、工芸品の展示会を催すときには必ず会場に茶

席を設けているんです。金沢には、工芸作家の新作の器で茶の湯を楽しむ「金沢城・兼六園大茶会」がありますし、俵屋宗達の墓がある宝円寺（金沢市宝町）で毎年九月十五日に催している宗達忌茶会は二〇一三年に百回の節目を迎えます。お茶を閉じた空間にするのではなく、こうした賑々しい席には県外からたくさんの人に来ていただけるよう情報発信することも大切です。

奈良 —— 茶どころ金沢でも、お茶の点前はするけれど、茶事は経験したことがないという人が増えているのではないのでしょうか。

茶事を催す際は、数日前から道具の取り合わせや懐石料理の献立を吟味し、お茶、花、掛け軸、菓子に心を配ります。茶事は総合的な芸術なのです。金沢は伝統工芸など「作り手」の多いまち。ぜひ道具を使う、あるいは飾るといって、「使い手」の体験をしていただきたいですね。

大樋 —— 私はこれからの美術工芸の未来を考える上で根本的に重要なのは教育だと思っています。幼少期にお茶でも美術鑑賞でも、美しいものを美しいと感じる体験ができる機会を与えることが大切です。美意識の入り口は感動ですから。

特集1
豊潤な文化に
育くまれた、
器の美



田村 一舟 作

By Isshu Tamura

四君子 姫三段重

Three-tier box with a pattern of four plants (chrysanthemum, bamboo, orchid and plum)

草木の中の君子に称え、それぞれの気品の高い美しさを表現した四君子（菊、竹、蘭、梅）を加賀蒔絵で繊細に表現した。少人数でお使い頂くのに程良いサイズ。■

¥189,000 / W135 × D135 × H142mm

和幸 ショップ No 7 → P24

Wako

扇面蒔絵吸物椀

Soup bowl with gold lacquer and a fan pattern

■ ¥115,500 / φ129 × H100mm

鑄型盆

Tray in the shape of a sword guard

■ ¥26,250 / W335 × D280 × H20mm

朱銀彩箸

Chopsticks with red and silver lacquer

■ ¥3,675 / W225mm

黒銀彩箸置

Chopstick rest with black and silver lacquer

■ ¥1,575 / W15 × D60mm

珍しい鑄型のお盆と漆黒の中に施された扇面平蒔絵の吸物椀。円形や角盆との組み合わせとは違うが、シンプルでバランスが良く落ち着きを感じる。“この一杯を”もてなす方の心が伝わってくる。

能作 ショップ No 6 → P24

Nosaku

美意識の 入り口は 感動です

大樋

A sense of beauty starts
with being impressed.
(Mr. Ohji)

堀川 十喜 作

By Toki Horikawa

赤絵鳳凰紋酒器揃え

Sake set with red Chinese phoenix design

赤絵細描は一本一本細い赤の線だけで描く為とても根気のいる職人技で、鳳凰を描いた図柄には奥行き感が感じられる。徳利の瓢箪型もロクロ職人の技が詰まっており、大変完成度が高い酒器揃である。

■ ¥210,000 / 徳利・φ90×H160mm、
碗・φ55×H30mm

金沢九谷振興協同組合

ショップ No 11 → P24

Kanazawa Kutani Ceramics Promotion Association

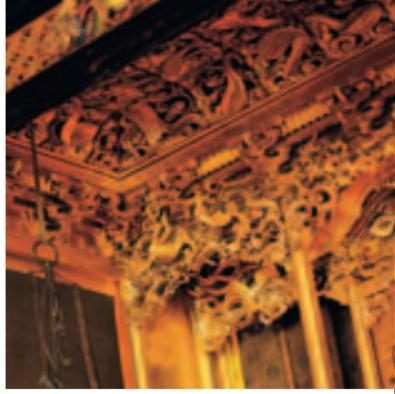
Association



陰

特集2 工芸王国・金沢の底力

翫



日本最大の金箔産地、金沢。
艶やかな光を放つ
金箔と深く関わる金沢仏壇を通して、
文豪・谷崎潤一郎が讃える
陰影に潜む美の世界へ、いざ。

In search of enchanting splendor

心奪われる
艶やかな光を
求めて



真宗王国の地で発展した金沢仏壇は、金箔押しで光り輝くような仏壇で、「七職」と呼ばれる専門職人が分業で腕を振るう。家族が代々受け継いでいくにふさわしい荘厳華麗さ。その中に職人の精神性が宿る。

陰翫礼讃

谷崎潤一郎の随筆。「経済往来」昭和8年12月号・9年1月号に掲載。まだ電灯がなかった時代の今日と違った美の感覚を論じたもの。こうした時代西洋では可能な限り部屋を明るくし、陰翫を消す事に執着したが、日本ではむしろ陰翫を認め、それを利用する事で陰翫の中でこそ生える芸術を作り上げたのであり、それが日本古来の芸術の特徴だと主張する。こうした主張のもと、建築、照明、紙、食器、食べ物、化粧、能や歌舞伎の衣装など、多岐にわたって陰翫の考察がなされている。日本的なデザインを考える上でも注目され、原研哉が『デザインのデザイン』の中でも触れている。

谷崎潤一郎

1886年（明治19年）7月24日 - 1965年（昭和40年）7月30日）日本の小説家。明治末期から第二次世界大戦後の昭和中期まで、戦中・戦後の一時期を除き終生旺盛な執筆活動を続け、国内外でその作品の芸術性が高い評価を得た。現在においても近代日本文学を代表する小説家の一人として、評価は非常に高い。代表作には痴人の愛』『春琴抄』『細雪』などがある。

礼

らい



翫

せん

特集2
陰翳 礼讃



新デザイン二号

New design Buddhist altar No.2

朱漆塗と黒漆塗のコントラストが美しいシンプルなデザインの現代仏壇。銀ロウ付けパイプ蝶番を採用し、堅牢性を高めている。板物金箔／日本産箔押漆／擦り漆による二回貼り／本金箔／総本金粉仕上げ／蒔絵地蒔き総本金仕上げ

■ W690 × D620 × H1,670mm

金沢仏壇商工業組合 ショップ No 28 → P25

Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association

70代金沢仏壇新三方開 (本願寺派)

Kanazawa Buddhist altar, New Sanpo style, Size 70, for the Honganji sect

昔から受け継がれた漆の気品と奥深い光沢、純金箔の華やかな美しさ、永遠の輝き、加賀蒔絵の優美さ、彫刻の重厚さを結集させた金沢仏壇。

■ ¥3,675,000 / W680 × D630 × H1,590mm

卯野屋仏壇店 ショップ No 28 → P25

Unoya Butsudan

日本座敷の美は
全く陰翳の濃淡に
依って生れている

The beauty of Japanese rooms is characterized by shading.

日本人が愛した
光と「かげ」

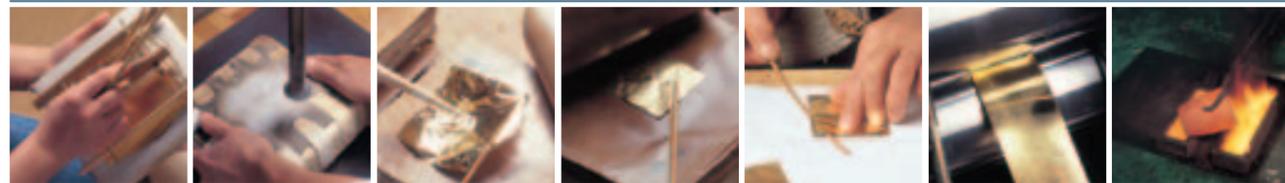
ものが光に照らされることよってできる「かげ」には二つの特質があります。光があたらない薄暗い部分は「陰」と呼び、足元や地面に落ちるものの形を「影」といいます。陰影は日本の視覚的な表現における重要な役割を担ってきました。たとえば伝統的な日本家屋は日中、明かり障子によって柔らかな陰影空間を生み出し、能面は陰影によって表情を変えます。

近代日本文学を代表する小説家谷崎潤一郎は、随筆「陰翳礼讃」の中で、部屋を明るくして陰影を消すことに執着した西洋に対し、陰影の内にももの美の本質を見出すのが日

本的な美意識であると主張しています。谷崎は華やかな蒔絵を施した漆器についてもふれ、「もしあの陰鬱な室内に漆器と云うものがなかったなら、蠟燭や燈明の醸し出す怪しい光に夢の世界が、その灯のはためきが打っている夜の脈搏が、どんなに魅力が減殺されることであろう。まことにそれは、畳の上に幾すじもの小川が流れ、池水がたたえられている如く、一つの灯影を此処彼処に捉えて、細く、かそけく、ちらちらと伝えながら、夜そのものに蒔絵をしたような綾を織り出す」と記しています。



Process of the Kanazawa leaf



- はくうつ 箔移し Transfer of leaves
- うまへ 打ち前 Ponding
- わた しこと 渡し仕事 Extension by beation
- ひい 引き入れ Insertion
- ずみ き 澄切り Cutting
- の きん 延べ金 Extension of gold-alloy
- きんあわ 金合せ Alloying

広物帳の箔を、竹枠を使って所定の大きさ（主に10.9センチ角、12.7センチ角等）に切り揃え、竹ばしで和紙に移す。

小間紙を重ね、上下に女紙、白蓋を重ね、さらに当革（あてかわ）をあてて巻き締め、糊づけする。上下をさらに袋革で覆い、乳革でしっかりと留めて固定し、1分間に約700回ハンマーが上下運動する機械で打つ。

打ち上がった小間を主紙に移し変えるのが、「渡し仕事」と呼ばれる作業である。これ以降の工程では金を手で扱ふことは出来ないため、渡し仕事は竹ばしを用いて行う。

小間は、広物帳に並べて一時保管し、打ち立ての際に箔打ち用の紙の間に引き入れていく。小間は通常1,800枚を一束にして袋革に包み、機械で打つ。

20.1センチ角の上澄を、「澄切箸（ずみきりばし）」と呼ばれる道具を使って、11枚あるいは12枚に切り分ける。この小片を「小間」という。

金の合金を機械で圧延する作業を20回程度繰り返す。100分の5～6ミリの帯状に延ばした地金を、通常「延べ」と呼ぶ。延べははずみを取り、柔らかくするため、電気窯で焼きなましをする。

◀ 金沢箔の工程



- かみじこ 紙仕込み Preparation of beating paper

紙を束ねて灰汁に浸す。1枚ずつはがして乾かす。束ねて空打ちする。という3工程を繰り返して、紙の強度や表面の状態を整える。箔屋は箔打ちよりも紙仕込みに多くの時間を費やすという。

Process of the Buddhist altar



- かなく 金具 Fittings
- まきえ 蒔絵 Gold-leaf decoration
- ぬり 塗り Coating with Urushi
- きじぼ 木地彫り Wood carving
- くうでん 宮殿 Altar

真鍮に輪郭を線描きした後、切りたがねで形を切り、模様たがねで細かく模様を入れていく。彫り上がった金具は酸で油やざびをとり除き、均（なら）し槌で叩いて平らに均す。最後にめっき加工をして完成する。

金沢仏壇の特徴は豪華な蒔絵にある。蒔絵師は、背景の山や川を描く「研ぎ出し蒔絵」、立体感を出す「錆上げ」、紅殻・灰墨を練り合わせた高蒔絵漆を用いる「漆上げ」などの技術を駆使して加飾を施していく。

木地、宮殿、箔彫り完成品がこの工程に入る。まず錆下地を数回塗り、地砥ぎをする。次に漆を刷毛で薄く塗り、乾燥させた後、炭に水をつけて砥ぐ。最後は漆が均等で適度な厚みとなるよう上塗りを行う。

原木を製材し充分乾燥させた後、用途により素材を選び分け所定の大きさに切断する。木取り木地に花鳥、天人等を下描きし、荒彫りした後、何種類もの彫刻刀で細部を仕上げ、とくさなどで磨き上げる。

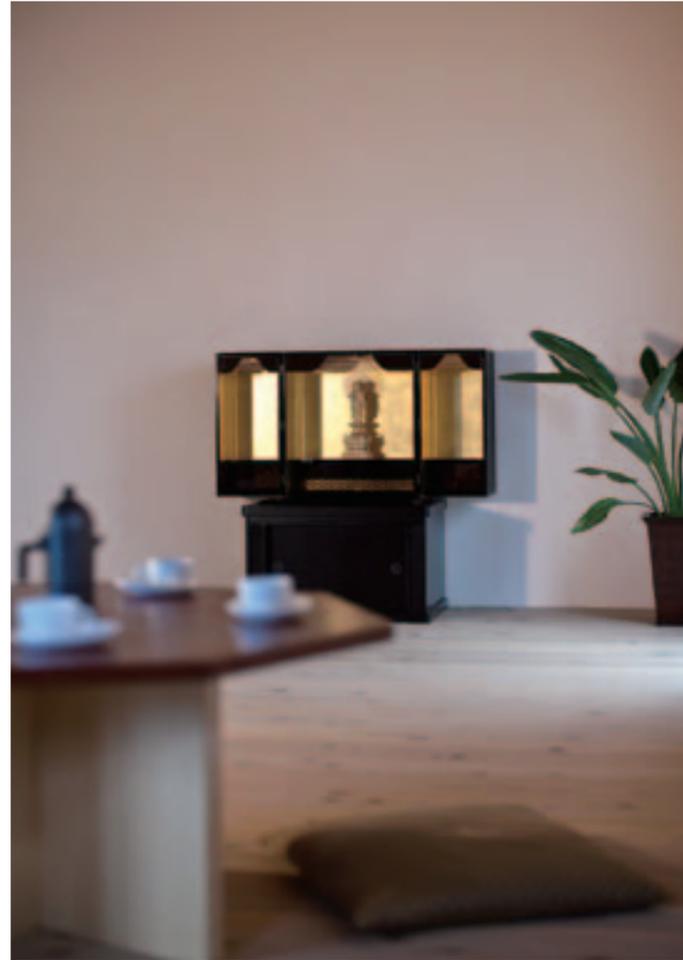
金沢仏壇の宮殿は上屋根の上部まで見渡せるため、細部まで手が抜けない。職人は、後工程で塗る漆の厚みまで配慮し、1000個以上に及ぶ部品をのみや小刀を使って一つひとつ丁寧に仕上げている。

仏壇に込められた
職人の技と魂

都市型仏壇四角BOXタイプ
Modern square box-type Buddhist Altar

堅牢でありながらコンパクト。主要部分を桐材にしたことで軽量化も実現した。漆塗りの布をあしらったり、レーザーで沈金を行ったりと、新技術とのコラボも。最大の特徴は、オーダーで奥行きを調節できること。扉はリバーシブル。内部収納を備えるなど、限られた居住空間にフィットさせる工夫が随所に凝らされている。各宗派共用型。■W450×D450×H545mm

金沢仏壇商工業協同組合
ショップ No 23 → P25
Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association



180度回転式仏壇
180-degree turning altar

現代の生活スタイルに合わせた機能的でモダンなオリジナル仏壇。表は仏壇だが、180°回転すれば飾り、収納スペースとして使用できる。表側の扉には、加賀本蒔絵で雪輪木瓜の螺鈿の切金模様が施されている。伝統工芸全国仏壇仏具コンテストで「中小企業庁長官賞」、いしかわ伝統工芸フェアにおいても「優秀賞」を受賞した。■¥1,575,000 / W500×D500×H1,000mm

池田大佛堂 ショップ No 24 → P25
Ikeda Daibutsudo



木爪型五福掛ミニ仏壇
Compact-type Buddhist altar

五面の掛けを持ち仏閣の本殿を反映。外観は厨子（ずし）型の木爪型でデザイン的に柔らかさと親しみやすさを感じられる。■W560×D485×H805mm

金沢仏壇商工業協同組合
ショップ No 23 → P25
Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association



六角形ミニ仏壇
Compact-type hexagonal Buddhist altar

安置する場所に適応しやすい六角のミニ仏壇で、表戸表通しに磨き蒔絵が施してあり半間にも合うように考えられている。■W440×D400×H660mm

金沢仏壇商工業協同組合
ショップ No 23 → P25
Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association



夜そのものに
蒔絵をしたような
The maki-e decoration stands out against the pitch-black background.

金箔と、工芸と、
信仰と

陰影を好む日本の暮らしの中に輪郭をもたない光の美をもたらすが金箔です。金閣寺や中尊寺金色堂など黄金の輝きをまとった建築物から、沈金蒔絵を巧みに施した美術工芸品まで、わが国の国宝や文化財の補修・修復に用いられる金箔のほとんどは現在、金沢で生産されています。

江戸時代、金銀箔の生産は徳川幕府の管理下に置かれてきましたが、加賀藩は百万石の大藩の金箔需要を満たすため密かに金箔を打ち続けました。金箔は金沢城や家臣の屋敷の装飾に欠かすことのできない材料だったので。金沢は明治維新後、金を一万分の一ミリの薄さまで延ばす極限の技で他産地をしのご存在となり、

全国のシェアの九十九%を占める産業へと大きな発展を遂げます。

金箔は信仰とも深く関わっています。蓮如上人の布教活動により庶民の間に深く浄土真宗の根が下ろされた金沢では、江戸時代に入り藩によつて御細工所が整備されたことで、仏壇製作の優れた技と美が育まれました。金沢仏壇の最大の特徴は、柱引き出しなど広範囲に施される精緻な蒔絵にあります。時を経ても色あせないその輝きは、親から子へと伝えられる祈りの心を表します。

工芸王国を自任する今の金沢でも、金沢箔は仏壇をはじめ、金沢漆器、金沢九谷、加賀織、桐工芸などの伝統工芸品に上品な輝きを添えています。人の心をときに高揚させ、とくに癒してくれる金箔は、陰影に潜む美を愛する日本人の美意識を呼び覚ましてくれます。



加賀毛針の美しさをもっとたくさんの方に伝えたい。新しいものづくりこそが伝統を守る事に繋がる。そんな思いから生まれたフェザーアクセサリーは金沢にしかない希少な逸品で、鮮やかな色づかいと個性的なデザインが若い女性を中心に人気を集めている。

[左] ¥5,250 / W75 × H70mm
[中] ¥5,250 / W35 × H65mm
[右] ¥5,250 / W50 × H67mm

チョーカー
Choker / Kaga artificial fly
目細八郎兵衛商店
シエンプ No. 44 ↓ P.26
Meboso Hachirobei Company

“2012年を力強く迎えて欲しい”4代目津田宏氏が手がけた干支の龍。従来の優美な作風とは違う力強さに挑んだ逸品。この迫力からは氏の本物の水引に対する熱い思いが伝わってくる。津田水引折型ならではのオリジナル作品。

■参考商品 / W240 × H170mm

水引細工 龍
Mizuhiki string craft, Dragon / Kaga Mizuhiki string craft
津田水引折型
シエンプ No. 42 ↓ P.26
Tsuda Mizuhiki Origata



上質な日常を 演出する金沢からの お薦めの逸品

Kanazawa products
that will add quality
to your daily life

加賀毛針、桐工芸、加賀水引細工、加賀象嵌、茶の湯釜、銅鑪、琴、金沢和傘、三弦、二俣和紙、竹工芸。

伝統工芸が暮らしのすみずみにまで根づいている金沢には、職人の数や製作数が限られているため希少価値が高い「希少伝統工芸」と呼ばれる工芸分野が多数あります。

昔と変わらぬ有りようで、あるいは現代のライフスタイルに寄り添う新しい形で、私たちの生活に潤いをもたらしてくれる希少伝統工芸の数々。そこには金沢の職人の美意識と、日本人ならではの暮らしの価値観をうかがい知ることが出来ます。

水引細工
竜の落とし子
加賀水引細工
Sea horse / Kaga Mizuhiki string craft
津田水引折型
シエンプ No. 42 ↓ P.26
Tsuda Mizuhiki Origata



これもまた2012年の干支である竜の落とし子。安産のシンボルでもあり、愛らしさを出す為あえてシンプルにそれぞれウグイス色とピンク色で表現した。ぜひ家族の繁栄を願って飾って欲しい。津田水引折型ではオリジナルの水引を使って本物の水引細工を製作している。

■ ¥4,700 <限定販売>
W60 × H150mm

ちよひごと
トレー
桐工芸

岩本清商店
Tay / Paulownia craft
シエンプ No. 38 ↓ P.26
Iwamoto Kiyoshi Shoten



発売当初から大人気のトレー。お茶とお菓子、あるいはお酒とおつまみを乗せておもてなしのシーンをさりげなく演出出来るように創作した。蒔絵は砥の粉と漆による錆で木地面から盛り上げて加飾してある。蒔絵はバリエーションがあり、また蒔絵のないタイプも揃っている。

■ ¥4,200 / W240 × D120mm

桐の木は天皇家や豊臣秀吉の紋章に使われる吉祥の木といわれ、女兒が生まれると桐の木を植えるという風習は親子の情愛を映している。軽く、耐湿、耐火性に優れ、金沢蒔絵を加飾した上坂のタンスは大事な小物等の収納に適している。[三ツ引き] ¥15,750 / W160 × D210 × H187mm [二ツ引き] ¥8,400 / W139 × D185 × H130mm

桐タンス
二ツ引、三ツ引
桐工芸

Paulownia chest of drawers
Two-drawer chest, three-drawer chest / Paulownia Crafts
桐漆工芸上坂
シエンプ No. 40 ↓ P.26
Paulownia Crafts Uesaka



金沢の希少伝統工芸品はコチラでもお求めになれます

金沢・クラフト広坂

ショップ No. 88 → P.26

www.crafts-hirosaka.jp

〒920-0962 石川県金沢市広坂 1-2-25

金沢能楽美術館内

TEL. 076-265-3320 FAX. 076-265-3321

営業時間 / 10:00 ~ 18:00 定休日 / 月曜日

(休日の場合はその翌日)、年末年始



上質な日常を 演出する 金沢からの お薦めの逸品

岡本昌子作
By Masako Okamoto

「水引細工」
ミニ二香雅

Perfumer, Mini Kaga / Mizuhiki string craft
千と世水引 ショップNo.41 ↓ P.26
Chitose Mizuhiki



千と世水引特有の色合いの水引細工に忍ばせた日本伝統の香り。暮らしの中でふと感じられるどこか懐かしい香りは、心を落ち着かせてくれる。
■ ¥2,520 / W48 × H50mm

白坂幸蔵作
By Kozo Shirasaka

御所車草花茶や辻
加賀染振興協会

Design of an ancient-style court carriage and plants / Kaga Yuzen
加賀染振興協会 ショップNo.1 ↓ P.24
Kaga Yuzen Promotion Cooperative Association



古典紋様をモチーフとした作風が人気を集める白坂幸蔵氏。茶や辻に御所車を配した訪問着は、やさしい色味で若い方にもおすすめ。

柿本市郎作
By Ichiro Kakimoto

琳派四君子
加賀染振興協会

Rimpa style with a pattern of four plants / Kaga Yuzen
加賀染振興協会 ショップNo.1 ↓ P.24
Kaga Yuzen Promotion Cooperative Association



構図にも模様にも格式の高さを感じさせる色留袖の秀作。柿本氏は、加賀友禅を芸術の域にまで高めた故木村雨山の薫陶を直接受けた作家のひとり。

藤村建雄作
By Tatsuo Fujimura

黄落
加賀染振興協会

Design of falling autumn leaves / Kaga Yuzen
加賀染振興協会 ショップNo.1 ↓ P.24
Kaga Yuzen Promotion Cooperative Association



色数を抑え、上品で柔らかな雰囲気を出した訪問着。丁寧な写生から着物の製作を始めるという藤村建雄氏のデザイン力が光る。

森田耕三作
By Kozo Morita

真善美
加賀染振興協会

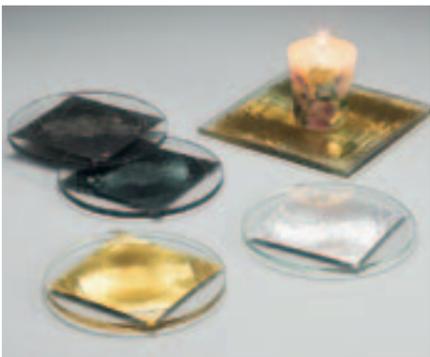
Named "Truth, Goodness and Beauty" / Kaga Yuzen
加賀染振興協会 ショップNo.1 ↓ P.24
Kaga Yuzen Promotion Cooperative Association



草花を緻密に描いた黒留袖。親しみやすい人柄の森田氏の仕事ぶりは、加賀友禅伝統産業会館の美演コーナーで見ることができる。

箔ガラスシリーズ
「金沢箔」

Glass crafts decorated with metal leaves / Kanazawa Leaf
今井金箔 ショップNo.14 ↓ P.25
Imai Gold Leaf



定番となった今井金箔オリジナルの箔ガラスシリーズ。1枚1枚微妙に違う箔の表情が堪能でき、切り取った箔のかたちや配置に手仕事の温かみを感じられる。 ■ [スクエア] ¥6,300 / W180 × D180mm [ラウンド] ¥6,300 / φ160mm

即非だるま
「金沢箔」

Bohidarma doll / Kanazawa Leaf
金箔工芸田てま ショップNo.17 ↓ P.25
Tajima Gold Leaf Craft



天然の木材におめでたい金箔を貼った手作りの縁起物。世界的に有名な佛教学者の鈴木大拙博士(金沢市出身)は、佛教の最高真理を表現した言葉として“即非”を提唱された。 ■ [朱] ¥13,650 / φ115 × H170mm [金] ¥18,900 / φ115 × H170mm

椀湯呑み荒波
「金沢箔」

Zeikova tea cup, named Rough Waves / Kanazawa Leaf
金銀箔工芸さくた ショップNo.16 ↓ P.25
Sakuda Gold & Silver Leaf



荒波の紋様を箔で表現した湯呑。陶器の湯呑みとは違い、櫟の木から伝わってくる独特な温もりを感じながら飲むお茶も又格別な味わいを感じる事が出来る。 ■ ¥8400 / φ78 × H100mm

銀彩蓋付汲出揃
「金沢箔」

Tea set decorated with silver pattern / Kanazawa Leaf
かなざわカタニ ショップNo.15 ↓ P.25
Kanazawa Katani



九谷の生地に直接銀上澄(約10ミクン)を糊で手貼りし、その上に白色の釉薬を吹きつけ高温にて焼くことにより釉薬が透明になり銀彩が浮き出た。箔のもつ美しさが十分に出ており、大事なお客様には是非出してみたい。 ■ ¥21,000 / φ84 × H50mm

おぼろ月
「金沢箔」

Named Hazy Moon / Kanazawa Leaf
箔一本店 箔巧館 ショップNo.18 ↓ P.25
Hakuchi Main store : Hakko-kan



おぼろ月夜をモチーフにしたボウルは、国産の栓の木を木目が出るよう削り出し、漆をすり込んでふき取る作業を繰り返して深みのある光沢を持たせた。
■ ボウル 6寸 ¥8,400 / φ180mm × H56mm
ボウル 8寸 ¥10,500 / φ240mm × H56mm
ボウル 10寸 ¥14,700 / φ300mm × H56mm

木製ボウル
「金沢箔」

Wooden bowls with metal leaf decoration / Kanazawa Leaf
箔座ひかり蔵 ショップNo.19 ↓ P.25
Hakuza Hikarigura



驚くほど薄く軽い栓の木の器を、箔座オリジナルの「純金プラチナ箔」を大胆に使い、木の質感を活かしてやわらかく包み込んで仕上げた。料理や菓子などの盛器はもちろん、オブジェとしても魅力的。
■ [M] ¥12,600 / φ210 × H45mm [S] ¥11,550 / φ180 × H40mm

上質な日常を
演出する
金沢からの
お薦めの逸品



金沢仏壇七職の技術の復興と後継者育成のために組合として総力を挙げて開発に取り組んだシリーズ作品の一つ。浄土真宗以外の宗派にもマッチするよう研究・デザインし、丸粉仕上げの蒔絵が施され格調高く仕上げられている。■ W675 × D597 × H1,640mm



大賀二号と同様の目的で開発されたシリーズ作品。彫刻と蒔絵のデザインを変えており、格調高く仕上げた。■ W675 × D597 × H1,640mm



江戸から明治時代にかけての古い仏壇の調査記録を行い、手のこんだ彫刻、蒔絵など、贅沢な造りの仏壇等のデザインを分析し、現代的なデザインと融合させた仏壇。■ W690 × D620 × H1,670mm

大賀二号 (70代) [金沢仏壇]
Buddhist altar Taiga No.2 / Kanazawa Buddhist altars
金沢仏壇商工業組合 ショップNo **28** ↓ P 25
Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association

大賀三号 (70代) [金沢仏壇]
Buddhist altar Taiga No.3 / Kanazawa Buddhist altars
金沢仏壇商工業組合 ショップNo **28** ↓ P 25
Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association

新デザイン一号 (70代) [金沢仏壇]
New design Buddhist altar No.1 / Kanazawa Buddhist altars
金沢仏壇商工業組合 ショップNo **28** ↓ P 25
Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association



加賀繻の伝統技法である、かわり繻(黒)やぼかし繻を使った丁寧な手仕事でなされたバッグ。持つ人の心も和み、和と洋どちらのシーンにも使える。■ 各¥24,125 / W238 × D125 × H25mm



ライトをつければ浮かび上がる加賀繻ならではの独特なテクスチャー。そこからは手仕事でしか表現出来ない優しさが伝わってくる。■ ¥18,000 / φ 167 × H253mm



伝統の加賀繻をもっと身近に使って頂けるようにブローチやペンダントにした。花柄や幾何学模様で表現しており帯留めとしても使える。■ ¥3,800 / W50 × D40mm

岡崎美紀子作
By Mikiko Okazaki
フォーマルバッグ 黒/赤 [加賀繻]
Formal bag / Kaga embroidery
石川県加賀刺繻協同組合 ショップNo **21** ↓ P 25
Ishikawa Kaga embroidery Association

長原久美子作
By Kumiho Nagahara
灯り [加賀繻]
Stand / Kaga embroidery
石川県加賀刺繻協同組合 ショップNo **20** ↓ P 25
Ishikawa Kaga embroidery Association

米山洋子作
By Youko Yoneyama
ブローチ、ペンダント [加賀繻]
Brooches, pendants / Kaga embroidery
石川県加賀刺繻協同組合 ショップNo **20** ↓ P 25
Ishikawa Kaga embroidery Association



日本三大絨のひとつ、石川県の牛首絨(うしくびつむぎ)の布地を使った扇子に、加賀蒔絵を施した上品な逸品。蒔絵で名入れすることも可能。■ 各¥42,000 / D210 × 展開350mm



引き締まった漆黒にはえる朱、その中心に小さいながら全体の空間をリードする蒔絵の桜がバランスが良い。椿皿として手に取りやすいデザインでもあり、フォルムの美しさ、実用性も魅力。テーブルシーンに華を添えてくれそう。■ ¥16,800 / φ 180 × H 30mm



和のシーンにも洋のシーンにも溶け込む朱。さりげなくも上品な蒔絵の中に青貝を使った螺鈿が可愛らしさを引き立てている。愛用の小物をこの小箱にしまおう時、取り出す時にきっと女性としてほのかな楽しみを想い浮かべる筈。■ ¥52,500 / W110mm × D110 × H80mm

下出光斎作
By Kosal Shimode
ぶどう蒔絵牛首絨 [金沢漆器]
Usukubi pongee fan with lacquer design of grapes / Kanazawa Lacquerware
和幸 ショップNo **7** ↓ P 24
Wako

6寸黒内朱桜椿皿 [金沢漆器]
Black and red plate with cherry blossom design / Kanazawa Lacquerware
金沢漆器商工業協同組合 ショップNo **6** ↓ P 24
Kanazawa Lacquerware Manufacturers Cooperative Association

朱角蒔絵小箱 [金沢漆器]
Red lacquer box / Kanazawa Lacquerware
能作 ショップNo **6** ↓ P 24
Nosaku



九谷焼の伝統的な技法である「青粒」の第一人者である仲田錦玉氏が上絵を手がけた、高級感のあるワイングラス。従来のグラスより底面積を大きくしたことで安定感が増し、図案もいっそう映える。グラスはドイツの名門シュペーゲラウ製。■ 各¥72,450 / φ 95~105 × H225~240mm



青瓷は窯の中で1,000℃位の高温で酸欠状態にして、透明釉に1%以下の鉄が入った釉薬を還元焼成して「青」色を出している。素地の色も黒っぽく青瓷の色合いとうまく重なって独特の温かみのある仕上がりとなっている。■ ¥31,500 / φ 90 × H 90mm



金沢九谷の名工吉田氏と新進気鋭の金工作家前田氏とのコラボレーションで生まれた作品で、紺地に白鷺を描いてある。測は銀できれいに細工しており、裏は荒し仕上げでムーンストーンがはめ込まれているのがポイントになっている。■ ¥18,000 / φ 35 × H60mm

金盛葡萄酒紋ワイングラス [金沢九谷]
上..ブルゴーニュ/中..下..ボルドー
Wine glass with gold decoration for Bordeaux or Burgundy wine
金沢九谷振興協同組合 ショップNo **9** ↓ P 24
Kanazawa Kutani Ceramics Promotion Association

岡重利作
By Shigetoshi Oka
青瓷五角鉢 [金沢九谷]
Blue pentagonal bowl / Kanazawa Kutani Ceramics ware
金沢九谷振興協同組合 ショップNo **13** ↓ P 24
Kanazawa Kutani Ceramics Promotion Association

吉田勝山 × 前田真知子作
By Katsuyuki Yoshida × Machiko Maeda
白鷺紋ネックレス [金沢九谷]
Necklace with egret design / Kanazawa Kutani Ceramics ware
金沢九谷振興協同組合 ショップNo **11** ↓ P 24
Kanazawa Kutani Ceramics Promotion Association

金沢伝統工芸 シヨップガイド

お気に入りの逸品を選ぶ
時間をゆつくり楽しむ。
旅の折に訪ねたい、
伝統工芸のシヨップガイド。
(50音順)

21 加賀繻 華工房
〒921-8016 金沢市東力町イ18番地
パークレジデンス201
☎ 076-291-2320
E-mail hanakoubou@kaganui.or.jp
9時～17時 土日祝休
<http://hanakoubou.at.webry.info/>



22 加賀繻 IMAI
〒920-0967 金沢市菊川2-10-12
☎ 076-231-7595
E-mail yokomitsu7788@yahoo.co.jp
9時～17時 年中無休



23 宮越仁美 繻工房
〒921-8034 金沢市泉野町1-12-12
☎ 076-243-2992
E-mail hitomi_m428@yahoo.co.jp
不定休
www.kaganui.or.jp/atelier/atelier03.html



金沢仏壇

金沢仏壇商工業協同組合
☎ 076-223-4914 E-mail info@kanazawa-butsudan.or.jp

24 (株) 池田大佛堂
〒920-0854 金沢市安江町5-7
☎ 076-222-5550
9時～18時 火曜休



25 今村佛壇店
〒921-8055 金沢市西金沢新町178-1
☎ 076-249-1366
9時～19時 木曜休



26 卯野屋仏壇店
〒920-0854 金沢市安江町15-44
☎ 076-263-9570
E-mail nobuhikouno@ezweb.ne.jp
10時～18時30分 火曜休



27 (有) 大竹仏壇製作所 匠楽
〒921-8046 金沢市大桑町2-121
☎ 076-244-4069
E-mail] otkdento@rudy.ocn.ne.jp
9時30分～20時 第2,4火曜休



28 金沢仏壇商工業協同組合
〒920-0855 金沢市武蔵町8-2
☎ 076-223-4914
E-mail info@kanazawa-butsudan.or.jp
9時～17時 土日祝休
kanazawa-butsudan.or.jp/



金沢箔

石川県箔商工業協同組合
☎ 076-257-5572 (土日祝休)

14 (株) 今井金箔
〒920-0968 金沢市幸町7-3
☎ 076-223-8989
E-mail info@kinpaku.co.jp
9時30分～18時 水曜休
www.kinpaku.co.jp/



15 かなざわカタニ
〒920-0910 金沢市下新町6-33
☎ 076-231-1566
E-mail officedotcom@katani.co.jp
9時～17時 無休(12月30日～1月3日休)
www.k-katani.com/



16 (株) 金銀箔工芸さくだ
〒920-0831 金沢市東山1-3-27
☎ 076-251-6777
E-mail kinpaku@goldleaf-sakuda.jp
9時～18時年中無休
www.goldleaf-sakuda.jp



17 金箔工芸 田じま
〒920-0855 金沢市武蔵町11-1 2F
☎ 076-263-0221
E-mail info@tajima-kinpaku.co.jp
10時～17時30分 火曜休(夏季、冬季休業あり)
www.tajima-kinpaku.com



18 (株) 箔一本店 箔巧館
〒921-8061 金沢市森戸2-1-1
☎ 076-240-0891
E-mail info@hakuichi.co.jp
9時～18時 年中無休(1月1日は休館)
www.hakuichi.co.jp/



19 箔座ひかり蔵
〒920-0831 金沢市東山1-13-18
☎ 076-251-8930
E-mail hikarigura@hakuza.co.jp
9時30分～18時 年中無休(冬季17時30分まで)
www.hakuza.co.jp/



加賀繻

石川県加賀刺繻協同組合
(加賀繻 葎ヶ浦悦子工房内) ☎ 076-227-8701

20 加賀繻 葎ヶ浦悦子工房
〒920-0367 金沢市北塚町西66-1
☎ 076-249-4989
E-mail yoshigaura@kaganui.or.jp
10時～16時 土日祝休



6 (株) 能作
〒920-0962 金沢市広坂1-1-60
☎ 076-263-8121
E-mail nosaku@kanazawa.gr.jp
10時～19時/水曜休(8月は無休)
www.kanazawa.gr.jp/nosaku/



7 (株) 和幸
〒921-8163 金沢市横川7-43
☎ 076-247-4455
E-mail wakou@nnsnet.or.jp
9時～18時/日祝、第2,4土曜休
www.kanazawa-wako.jp



金沢九谷

金沢九谷振興協同組合
九谷焼 鑄木商舗内
☎ 076-221-6666 E-mail kanazawa@kiburaki.jp

8 片岡光山堂
〒920-0936 金沢市兼六町2-1
☎ 076-221-1291
4～10月/9時～18時 無休
11～3月/9時30分～17時 水曜休



9 九谷焼 鑄木商舗
(金沢九谷焼ミュージアム併設)
〒920-0865 金沢市長町1-3-16
☎ 076-221-6666
E-mail kanazawa@kiburaki.jp
9時～22時(日曜・祝日:9時～18時)年中無休(不定休)
www.kiburaki.jp/



10 九谷巴商会
〒920-0936 金沢市兼六町2-13
☎ 076-231-0474
E-mail akira23@guitar.ocn.ne.jp
10時～18時無休



11 九谷焼 諸江屋
〒920-0981 金沢市片町1-3-22
☎ 076-263-7331
E-mail kutani@moroeya.com
9時～20時 水曜休
www.moroeya.com/



12 黒龍堂
〒920-0853 金沢市本町1-5-3 リファール1F
☎ 076-221-2039
E-mail kutani@kokuryudo.com
9時～19時/火曜休(祝日を除く)
www.kokuryudo.com/



13 北山堂
〒920-0962 金沢市広坂1-2-33
☎ 076-231-5288
E-mail office@hokusando.co.jp
9時30分～18時30分 月曜休
www.hokusando.co.jp/



加賀友禅

協同組合加賀染振興協会
加賀友禅伝統産業会館
☎ 076-224-5511 E-mail info@kagayuzen.or.jp

1 加賀友禅伝統産業会館
〒920-0932 金沢市小將町8-8
☎ 076-224-5511
E-mail info@kagayuzen.or.jp
9時～17時/水曜休(祝日を除く)
www.kagayuzen.or.jp/



2 長町友禅館
〒920-0865 金沢市長町2-6-16
☎ 076-264-2811
E-mail mail@kagayuzen-club.co.jp
9時～17時/無休(年末年始のみ休)
www.kagayuzen-club.co.jp/



3 加賀友禅 毎田染画工芸
920-0964 金沢市本多町3-9-19
☎ 076-221-3365
E-mail info@maida-yuzen.com
9時～17時30分 日曜休
www.maida-yuzen.com



金沢漆器

金沢漆器商工業協同組合
金沢商工会議所内 ☎ 076-263-1157 (土日祝休)

4 赤地漆器店
〒920-0805 金沢市小金町12-2
☎ 076-252-8939
9時～19時 日祝祭休



5 (株) 石田漆器店
〒920-0981 金沢市片町1-7-21
☎ 076-261-2364
E-mail ishida@e-katamachi.com
10時～19時 水曜休
www3.nsknet.or.jp/ishida/



希少伝統工芸

38 金沢桐工芸 岩本工房

〒920-0854 金沢市安江町 15-43
☎ 076-231-5421
E-mail info@kirikougei.com
10時～18時30分 火曜休
www.kirikougei.com



39 金沢・クラフト広坂

〒920-0962 金沢市広坂 1-2-25 金沢能楽美術館内
☎ 076-265-3320
E-mail info@crafts-hirosaka.jp
10時～18時 月曜休(祭日の場合翌日休)
年末年始12月29日～1月1日休
www.crafts-hirosaka.jp



40 桐漆工芸 上坂

〒920-0936 金沢市兼六町 2-15
☎ 076-264-1511
10時～17時 火曜休



41 千と世水引

〒920-0902 金沢市尾張町 1-9-26
☎ 076-221-0278
9時30分～17時(土曜・祝日のみ10時～16時)
日曜 3月～12月の第2・第4土曜休(祝日は不定休)
www.chitosemizuhiki.com



42 (有) 津田水引折型

〒921-8031 金沢市野町 1-1-36
☎ 076-214-6363
E-mail info@mizuhiki.jp
10時～18時(土曜は12時まで) 日祭休
www.mizuhiki.jp/



43 広瀬桐工芸

〒921-8022 金沢市中村町 30-20
☎ 076-241-2544
8時～17時 土日祝休



44 目細八郎兵衛商店

〒920-0854 金沢市安江町 11-35
☎ 076-231-6371
E-mail webmaster@meboso.co.jp
9時30分～18時 火曜休
www.meboso.co.jp



その他

45 大樋焼本家十代長左衛門窯 大樋美術館

〒920-0911 金沢市橋場町 2-17
☎ 076-221-2397
9時～17時 無休
www.ohimuseum.com



46 金沢能楽美術館

〒920-0962 金沢市広坂 1-2-25
☎ 076-220-2790
18時 月曜休(祭日の場合翌日休)
年末年始12月29日～1月1日休
www.kanazawa-noh-museum.gr.jp



29 北村仏壇店

〒921-8815 野々市市本町 5-4-7
☎ 076-248-3362
8時～18時



30 (株) 澤田仏壇店

〒920-0854 金沢市安江町 3-15
☎ 076-221-2212
9時30分～18時30分 火曜休



31 塗師岡仏壇店

〒920-0843 金沢市森山 2-1-29
☎ 076-253-2201
8時30分～18時 木曜休



32 塗師岡仏壇店

〒921-8031 金沢市野町 1-2-36
☎ 076-241-0795
平日10時～18時/土日祝13時～18時/日曜休



33 はやし仏壇店

〒921-8033 金沢市寺町 5-5-17
☎ 076-241-8690
9時～18時 日曜休
www.geocities.jp/hayashi_butsudan/



34 三島仏壇

〒920-0862 金沢市芳齊 2-4-2
☎ 076-221-8015
9時～18時 日曜休



35 森田仏壇店

〒921-8031 金沢市野町 3-2-38
☎ 076-241-1375
E-mail butudan2429@athena.ocn.ne.jp
8時～20時 不定休
www5.ocn.ne.jp/~butudan/



36 (有) 山田仏具店

〒920-0854 金沢市安江町 13-3
☎ 076-221-2306
E-mail info@yamadabutsuguten.co.jp
9時～19時 火曜休(祝日を除く)
yamadabutsuguten.co.jp/



37 (株) 米永仏壇

〒920-0058 金沢市示野中町 1-10
☎ 076-221-1930
9時～18時 木曜休
w2223.nsk.ne.jp/~yonenaga/



